

赤兎山（1629m）の登山を楽しむ

-足ハイキングクラブの仲間と山行き-

わが家の

コミュニティニュース

ishiduka



足ハイキングクラブでは、入会后、浄法寺山に続き二回目の登山。七時雪研集合。帰りに大野に寄った帰るので、マイカーで参加することにする。
梅雨明け後は、太平洋高気圧の張り出しが悪く、台風八号、十一号の影響で、夏本番の天候はなかなかやっこない中、にわか雨を覚悟で、会員十二名で赤兎山（1629m）に向かう。いつものように林道入り口で一人3000円の入山料を支払い、ゲートを通過。八時半過ぎに赤兎山登山口駐車場に到着する。

雲間に僅かに青空がのぞく空模様の中を八時五〇分に登山開始。登山口には、新たな案内標柱を立ててあるが、文字の記入がなく、白紙に文字を

書き張り付けてある。（このような未完成の標識はめずらしい）
最初の小さなスギ林を過ぎ、ブナの二次林（一度伐採した後には次のブナの木が成育した林）を通して広葉樹の森を進むと、紫色のアキギリの花が迎えてくれる。



小原峠までの登山道沿いでは、ノリウツギの白い花、薄紫色のハクサンカメバヒキオコシ、モミジの葉のようなモミジバハグマの白い花が目につく程度で、僅かの花しか見ることができない。
小原峠付近には、ブナの大木が多く、峠には九時三〇分に到着する。ここで、最初の休憩とする。すぐに、福井市内から来た若者四名がやってきたので、少し



会話を交わり、お互いの写真を撮りあう。ここで、宮本会長が「大長山へ行きたい人はいますか?」と確認すると、体力に自信がある友清さんだけが「大長山を目指すことになる。（がんばってね!）」
友清さんと一旦お別れし、私たちは赤兎山を目指し、雨水で掘れた足場の悪い登山道を通って、一〇時八分に経ヶ岳



(1625m) に向かう登山道との分岐点に到着する。この付近から刈込池の上に聳える願教寺山が望むことができたが、残念ながら経ヶ岳は雲の中だ。(今日は、福井県側から次々と雲が流れてやってくる。)

更に進み、赤兎山山頂を一〇時三〇分頃に通過。しばらくすると眼前に赤兎山避難小屋や笹原が望め、この付近では、青紫の①オヤマリンドウの花(花が僅かに開く)、濃いオレンジ色の②ゴゼンタチバナの実を見かける。急な木製の階段を下り、緩やかな傾斜の笹原の中を通り過ぎると避難小屋手前の小さな池塘(ちとう)に辿り着く。ここでは、白く開いたイワシヨウブ(開花初期は薄紅色)や③イワイチヨ



ウの花を見かける。この付近は、秋の紅葉がとても綺麗で、赤兎山付近では、一番好きな場所だ。



避難小屋付近では二十人位がくつろいでいて、私たちは白山が望める箇所まで先に進む。あいにく白山は、甚

助避難小屋付近から上は厚い雲に覆われ、左から湯之谷、別当谷、甚ノ助谷は確認できるものの全容は見せてくれない。



白山は雲の中



赤兎山避難小屋

ここで、赤兎山山頂付近で拾った手袋の持ち主(女の子)が見つかり渡してあげ、昼休憩とする。

一時には、みんなで輪を作り、準備



中華そばを準備する伴藤さん達

備していただいた冷やし中華をご馳走になる。(六月一五日の浄法寺山での素麺、今回の冷やし中華といい、いつもながらの心遣いに感謝致します)

食事が終わると雑談が始まり、NHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」や「東大安田講堂事件」などの最近の話と昔の学園紛争の話で盛り上がる。

